

# 平成26年度業務計画書

## I. 業務の内容

### 1. 業務の題目

科学リテラシーの向上に関する実践的研究

### 2. 担当フェロー

星 元紀  
長崎 栄三

### 3. 業務の目的

「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書（2008, 科学技術振興調整費「科学技術の智プロジェクト」）の基本的な考え方を踏まえ、「21世紀を心豊かに生きるにあたり、『持続可能な民主的社会』を構築するために万人が共有してほしい」科学リテラシーの向上を図るために必要となる具体的施策の基盤を形成することを目的とする。この目的のために、これまでに行ってきた調査研究をもとに作成中の中間報告書を叩き台として提出し、科学コミュニケーションセンターフェロー等の助言・批判を仰ぐとともに、さらに充実した報告書作成に向けて、「国民の科学リテラシーの向上に関する調査・研究」および「生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーの向上に関する調査・研究」をさらに推進する。

#### ①国民の科学リテラシーの向上に関する調査・研究

- a. ベンチマークを設定する
  - ・身につけるべき「基礎的知識」、「考える力」の目標水準を検討する。
- b. 2030年までに目標水準を達成するための推進計画の作成
  - ・2015年中に具体的な施策を策定するためのロードマップを作成・提示する。
  - ・その施策に基づき2030年までに目標を達成するためのロードマップを作成・提示する。
- c. 「21世紀の科学技術リテラシー像～豊かに生きるための智～プロジェクト」報告書の内容を広く普及させるための計画の作成、当該計画の試験的实施

#### ②生活の中のリスクに関わる科学リテラシーの向上についての検討

最近、特に問題となっている生活の中のリスクにかかわる科学リテラシーを、リスク教育及び消費者教育との接続という観点からとらえ、その向上には何をすべきか、何ができるか、何処とどのように協力すべきかなどを具体的に考え、試験的な実施を試みる。

### 4. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

#### ①国民の科学リテラシー及び生活の中のリスクに関わる科学リテラシーの向上に関する調査・研究

- a. ロードマップ等の検討
  - ・国民の科学リテラシー向上のための具体的な施策を策定するためのロードマップ及びベンチマークを検討する。
  - ・生活の中のリスクに関わる科学リテラシーを、リスク教育及び消費者教育と接続するための具体案を検討する。
- b. 中間報告書の作成・改訂
  - ・上記①の業務と並行して、中間報告書を作成する。また、これに対する助言・批判を受け、最終的な報告書に向けての検討を開始する。
- c. 研究会等の実施
  - ・上記 a. b. のために、原則として月に1回、4時間程度のユニット会議・研究会を開催するとともに、必要に応じて講師・情報提供者を適宜招聘する。